

麦類赤かび病の防除を徹底しましょう

麦類の赤かび病を発生させる病原菌には、人や家畜に中毒症状を引き起こすかび毒等（デオキシニバレノール：DON等）を産生するものがあり、農産物検査規格では、食用麦の赤かび粒の混入限度は全麦種で0.0%以下となっています。赤かび病の発生した麦は商品価値がなくなるので、麦類赤かび病の防除を必ず実施しましょう。

今年の出穂期は昨年同様、平年よりもやや早まることが予想されています。

（参考） 農業試験場（宇都宮市）での出穂予測 3月22日現在

麦種	今後の気象経過による出穂予測日		平年の出穂日	出穂から開花までの日数
	平年並	平年より1 高い		
ミカモゴールド（二条大麦）	4/14	4/11	4/17	
シュンライ（六条大麦）	4/19	4/14	4/19	5～7日
農林61号（小麦）	4/27	4/23	4/29	5～8日

防除対策

- ・ 麦の生育状況を良く観察し、適期を逃さない防除が重要
- ・ 六条大麦や追肥をした小麦（タマイズミ等）は、2回防除が基本（薬剤耐性菌の発生を予防するため異なるグループの薬剤を使用する）

麦種	防除適期	多発のおそれがある場合 (不稔粒発生や登熟期に曇りや降雨が多い)
二条大麦	穂揃い期7～10日後	1回目の7～10日後に2回目散布
六条大麦	開花始めと1回目の10日後の2回散布	3回目散布
小麦	開花始めと1回目の10～20日後の2回散布	3回目散布

表 麦類赤かび病に登録のある主な薬剤（平成22年3月25日現在）

グループ名	薬剤名	作物名	希釈倍数	使用時期 収穫前日数/使用回数
ベンゾイミダゾール系	トップジンM水和剤	麦類(小麦を除く)	1,000～1,500倍	30日前まで/3回以内(*1)
		小麦	1,000～1,500倍	14日前まで/3回以内(*2)
EBI剤	シルバキュアフロアブル	大麦	2,000倍	14日前まで/2回以内
		小麦	2,000倍	7日前まで/2回以内
	チルト乳剤25	大麦	1,000～2,000倍	21日前まで/1回
		小麦	1,000～2,000倍	3日前まで/3回以内
ワークアップフロアブル	小麦	2,000倍	14日前まで/2回以内	
ストロピルリン系	ストロビーフロアブル	麦類(小麦を除く)	2,000～3,000倍	14日前まで/3回以内

<無人ヘリコプターによる散布の登録がある薬剤>

グループ名	薬剤名	作物名	希釈倍数	使用時期 収穫前日数/使用回数
ベンゾイミダゾール系	トップジンMゾル	麦類(小麦を除く)	8倍	21日前まで/3回以内(*1)
		小麦	8倍	14日前まで/3回以内(*2)
EBI剤	チルト乳剤25	大麦	8倍	21日前まで/1回
		小麦	8倍	7日前まで/3回以内

注) *1：出穂期以降は1回以内 *2：出穂期以降は2回以内
・ 収穫前日数、無人ヘリでの使用農薬に留意して使用薬剤を選定する。

詳しくは、農業環境指導センター（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>）までお問い合わせください。当センター携帯サイト（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/keitai.htm>）もご利用ください。

